

Japan Alps Cycling Project の 取組と走行環境等の整備について

長野県 建設部 道路管理課

1. はじめに

長野県は、全国でも有数の健康長寿県であること、美しい山岳高原など豊かな自然に恵まれていること、多様な自然環境や地域資源を生かした観光が重要な産業であること等、県の特徴を生かし、健康の増進、環境保全、観光振興等における自転車活用を促すとともに、安全・安心な自転車利用のために平成 31 年に「長野県自転車活用推進計画」を策定し、様々な施策に取り組んでいます。

ここでは、その施策の中で長野県のサイクルツーリズムを推進するために、観光協会、自転車関係団体、自治体、観光事業者など多様な主体で連携し組織として設立された「Japan Alps Cycling Project」の取組と、プロジェクトの一環として設定した「Japan Alps Cycling Road」の走行環境整備について記載します。

2. Japan Alps Cycling Project について

先にも述べたとおり、長野県ではサイクルツーリズム促進のため「Japan Alps Cycling Project」（以下、「JACP」という）を設立し、活動を行っています。

その中の取組の一つとして、長野県のサイクルブランドのイメージを具体化するために「Japan Alps Cycling Road」（以下、「JACR」という）として、県内一周約 800 km を一筆書きとしたサイクリングコースを昨年 12 月に設定しました。長野県は「日本の屋根」とも呼ばれる標高 3,000 m 級の山々がそびえ、豊かな森林と清流が織りなす雄大な自然に抱かれた、日本を代表する山岳県・森林県です。JACR は、このスケールメリットを大いに生かし、北アルプス・中央アルプス・南アルプスの 3 つのアルプス（総称して以下、「日本アルプス」という）を中心に据えた、県内を周遊するサイクリングのモデルルートとなっています（図－1）。

JACP では、ルート設定の他、Japan Alps Cycling ブランドのロゴマークも作成しました。このロゴマークを今後、JACR 上に設置する案内看板や路面標示にも統一して使用し、ブランドの定着へ活用したいと考えています（図－2、3）。

その他、プロジェクトの現在の取組として、設定したモデルルートのテストライドを実施し、地域の魅力や走行時の路面状況を公式サイトでの情報発信や、ブランド構築に向けた県内各地域の観光団体との連携強化を図るための情報交換などを実施しています。

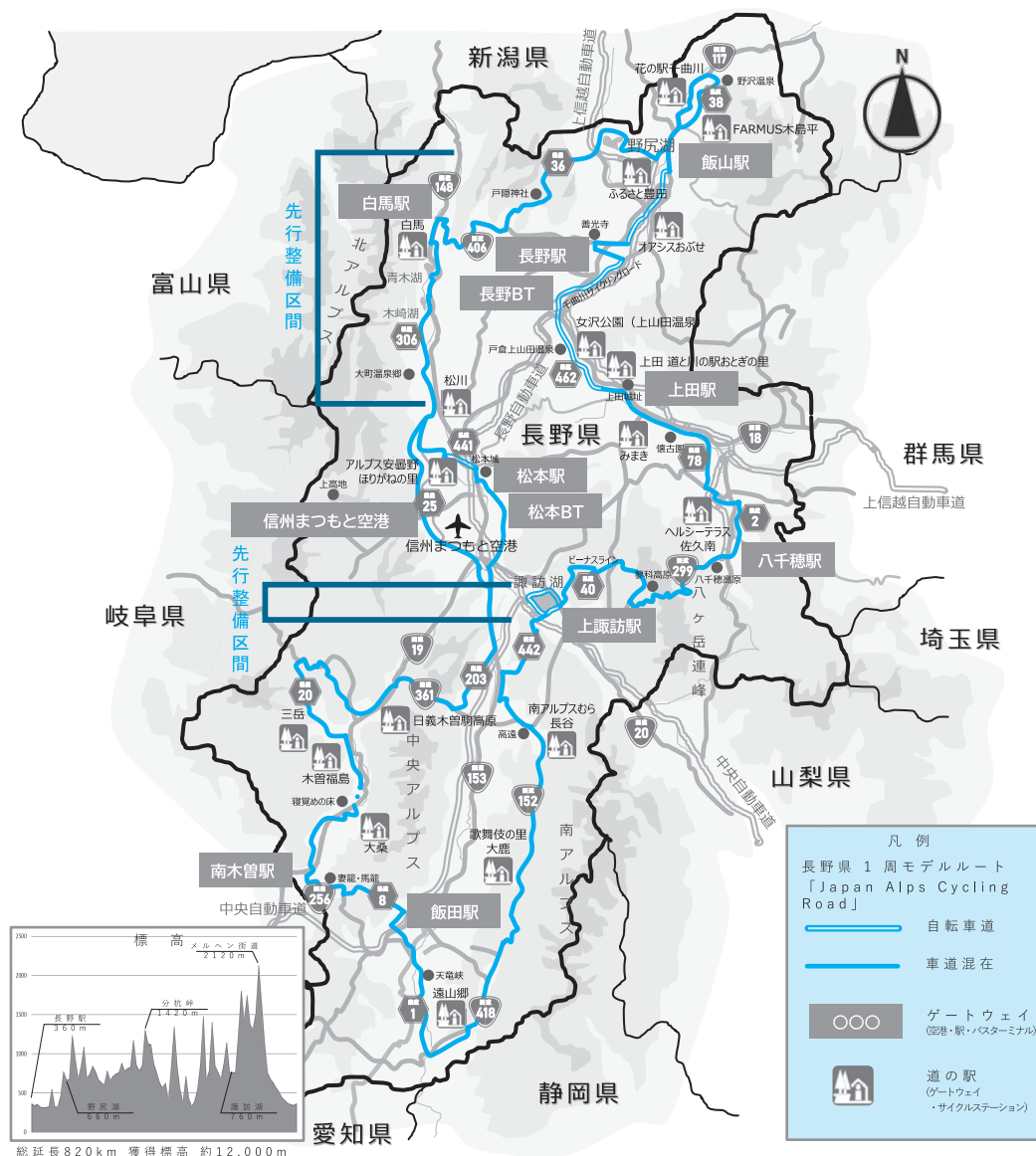


図-1 Japan Alps Cycling Road ルート図

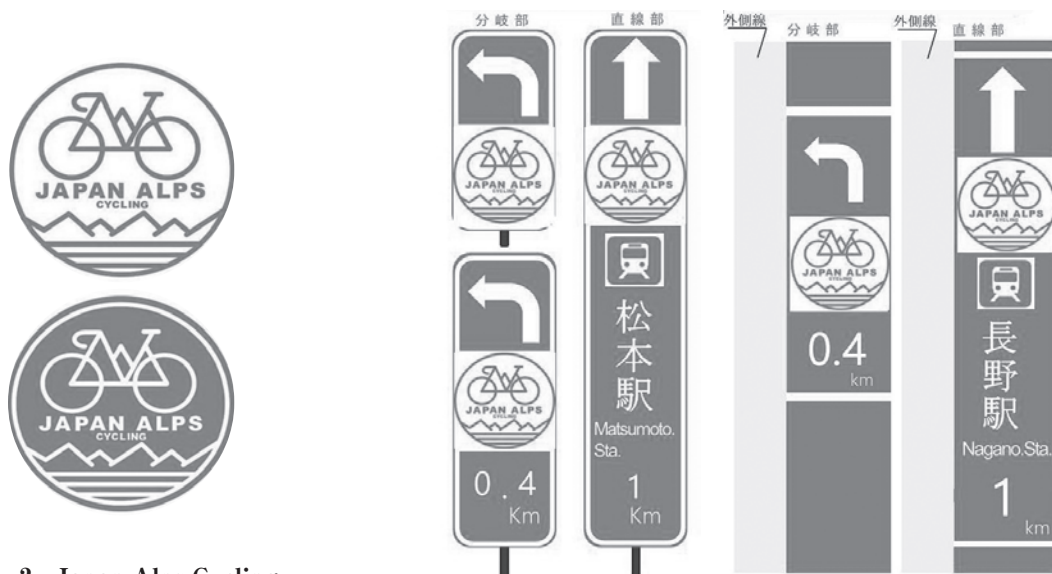


図-2 Japan Alps Cycling
ブランドロゴマーク

図-3 案内看板・路面標示イメージ

3. 走行環境等の整備について

先に紹介したJACRにおいて、現在、先行整備区間として、県の中心に位置する諏訪湖周遊および日本アルプスの一つである北アルプス地域の走行環境整備、既存自転車道のリニューアル事業、県管理道の駅のサイクルステーション化を推進しています。

(1) 諏訪湖周サイクリングロード

長野県の中央に位置する諏訪湖は、夏期には諏訪湖祭湖上花火大会・全国新作花火競技大会など

が開催され、周辺には諏訪大社や上諏訪温泉もあり、観光資源の多い地域です。

諏訪湖周遊には既存のジョギングロードが整備されていますが、地域の観光資源でもある諏訪湖の水辺整備の推進や湖辺面の利活用として、諏訪湖周遊におけるサイクリングを推進し、国内外から諏訪湖周遊へサイクリストの誘致を図り、サイクリング観光を活性化させることを目標として、走行空間の整備を実施しています。

全長約 16 km、代表幅員 3.0m の自転車専用道で、長野県その他、諏訪市、岡谷市、下諏訪町の 2 市 1 町により整備を実施しています（図 - 4, 5）。また、諏訪市・岡谷市・下諏訪町では、2 市



図-4 諏訪湖周サイクリングロード平面図



図-5 諏訪湖周サイクリングロード整備イメージ

1 町の共同で地方版自転車活用推進計画を策定しており、全国的にも珍しい事例となっています。

今後は通行空間整備の他、「小径の駅」の名称でサイクルラックやトイレを整備したサイクリストの休憩施設の設置を予定しています。また、自転車を利用して地域の魅力を伝えるサイクルガイドの育成・ガイドによるサイクリングツアーの企画もしており、初心者から上級者、観光客にも親しみやすい走行環境の整備を進めています。

(2) 北アルプス地域サイクリングモデルコース

北アルプス地域サイクリングモデルコースには、地域の観光資源でもある北アルプス山麓に初心者向け、中上級者向けの2種類のコースが用意されている他、年間を通じて楽しめるサイクルアクティビティや春期から夏期を中心に開催されるサイクルイベントを通じて、サイクリング観光の

活性化を目指しています。

サイクリストに優しい走行環境整備として、既存道路の自転車通行帯の段差解消、矢羽根型路面標示の設置、コース・サイクルステーション・ビュースポット等の案内看板の設置を実施しています（写真－1、2）。

今後は、諏訪湖周サイクリングロード同様、北アルプス地域の5市町村による共同計画の策定を予定しており、さらなる通行空間整備に取り組んでいく予定です。

(3) 既存自転車道リニューアル事業

新たな走行環境の整備の他、今後貴重な観光資源ともなる既存の自転車道についても舗装修繕や路面標示の再設置によるリニューアルを実施し、積極的な利用の促進を図っています（写真－3）。



写真－1 矢羽根型路面標示



写真－2 案内看板



リニューアル前



リニューアル後

写真－3 既存自転車道線のリニューアル状況



写真－４ 道の駅でのサイクルラック設置状況

(4) 道の駅のサイクルステーション化

長野県管理の道の駅は現在 21 箇所ありますが、全ての道の駅でサイクルラック・メンテナンス工具等を備え付け、サイクルステーションとしての整備を進めています（写真－４）。

今後は市町村管理施設や民間事業者の協力も得て、サイクリストの快適な利用環境確保のため、サイクルステーションの拡大を図っていきたいと考えています。

4. おわりに

長野県内の走行環境整備はまだ一部にとどまっています。また、JACR は県内一周、日本アルプスを走破するコースとなっていることもあり、初心者から上級者向けまで様々なコースが交ざりあっています。

この JACR は長野県のサイクルブランドの象徴としてのモデルルートであることから、今後はモデルルートから枝分かれするように各地域の特色を生かしたルートの設定を図り、観光誘客や健康増進を図っていきたいと考えています。

そのためには、県内市町村の協力が必要不可欠となっていきます。現在、長野県内 77 市町村のうち、自転車活用を施策に取り入れた市町村は 25 市町村、地方版自転車活用推進計画を策定済市町村は 5 市町（令和 2 年 3 月末時点）にとどまっていますが、長野県自転車活用推進計画では、県内全市町村で自転車活用を施策に取り入れていただくことを目標としています。

今後は、各地域との意見交換等を積極的に実施し、各地域の特色を生かした自転車通行空間の整備を推進していきたいと考えています。